

浅賀ふさ 日本最初の医療ソーシャルワーカー。

あさがふさ

日清戦争始・1894 = 愛知県半田町(半田市)で、資産家小栗富次郎の次女に生まれる。旧姓小栗將江。

日比谷公園・1903 = 9歳 :

日露戦争終・1905 = 11歳 :

明治天皇没・1912 = 18歳 :

日本女子大学校英文学科卒業。

第一次大戦終・1919 = 25歳 : 民間航空の草分けである兄常太郎に同行して渡米。

原敬首相暗殺1921 = 27歳 :

滞米中、手術を受けたり、身近に社会事業学が研究生がいたことなどから、社会事業に関心を持ち始め、

護憲三派圧勝1924 = 30歳 : シモンズ女子大学大学院社会事業学校、

ハーバード大学の大学院でソーシャルワークや教育学を学び、キャボット博士・キャノン女史らの影響を受けて、来米していた東京聖路加国際病院院長を説得するとともに、マサチューセッツ総合病院などで実習指導を受け、

世界恐慌・1929 = 35歳 :

\*帰国すると、東京聖路加国際病院に就職し、社会事業部を創設、

海軍軍縮条約1930 = 36歳 :

満州事変・1931 = 37歳 :

わが国の医療ソーシャルワーカーの草分けとして先駆的役割を担い、

国際連盟脱退1933 = 39歳 :

新しく作業治療部をつくり、リハビリテーションやグループワークも手がけた。

同郷の市川房枝らと戦前の婦人運動の中心となり、婦人参政権獲得運動や母子保護法制定に尽力した。

日中戦争始・1937 = 43歳 :

健保+総動員 1938 = 44歳 :

浅賀長兵衛と結婚、2人の男子の義母となり、\*退職。

第二次大戦始1939 = 45歳 :

日米開戦・1941 = 47歳 :

敗戦・1945 = 51歳 : 疎開先で夫と死別。

新憲法施行・1947 = 53歳 :

\*厚生省児童局に二級事務官として入り、児童福祉法制定に寄与した。

極東裁判判決・1948 = 54歳 :

朝鮮戦争始・1950 = 56歳 :

日本社会事業短期大学の講師、

独立回復・1951 = 57歳 :

テレビ放送始・1953 = 59歳 :

「ソーシャルケースワーク」。日本医療社会事業協会の初代会長に就任。日本福祉大学(中部社会事業短期大学)の創始者の1人となり、

医療ケースワーカーの組織化、身分法の制定をめざす運動の中心として活躍、

なべ底不況・1957 = 63歳 :

第9回保健文化賞受賞。

安保闘争・1960 = 66歳 :

いざなぎ景気1966 = 72歳 :

美濃部都知事1967 = 73歳 : 「(編)医療社会事業事例集」、

ドルショック・1971 = 77歳 :

「ケースヒストリーの要点」、

石油ショック1973 = 79歳 :

角栄金脈辞任1974 = 80歳 :

\*この年まで、日本福祉大学教授として教壇に立つて、

ケアンズ事件1975 = 81歳 :

バブル始・1986 = 92歳 :

没した。

「目でみる日本人物百科」、「日本の女性」、インターネット、